

本プロジェクト体制になってから早いもので3年以上の月日が経過した。2019年度は新たに2名の研究所所属のリサーチフェローを迎え、また研究所員が増員されるなど、より一層研究の充実化が図られた年度であった。それぞれのプロジェクト研究も、一区切りを迎えるもの、これまでのデータが積み重なり研究の展開に拍車がかかったもの、新たに走り出したプロジェクトなど、今後の体育研究所の躍進を大いに期待させられる年であったと思うと感慨深い。体育研究所では、その年度の成果報告を翌年度(2020年度)に「体育研究所雑誌」として発刊している。本来であればこの2020年度は、東京オリンピック・パラリンピックの開催によって大いに盛り上がる年であると誰もが信じて疑わなかっただろう。しかしながら、新型コロナウイルスの存在によって世界は一変した。今やこのウイルスの名前を聞かない日はないだろう。オリンピック・パラリンピックは延期となり、世界中で人々の往来が中止され、これまでの生活や仕事の概念が全て覆される事態となった。このような事態はここ数十年であっただろうか。まさに激動の時代であると言えよう。そのような背景の中で、随分と先延ばしとなってしまったものの、本雑誌の発刊へと至ることができたのは、周囲のご指導・ご協力があったからこそである。

未だこのウイルスの終息の兆しが見えないこの大変な状況下であっても、体育研究所の発展と、新型コロナウイルスの早い終息を心より願って話の結びとしたい。

小谷鷹哉、鴻崎香里奈